

八間堀排水区大規模雨水処理施設整備事業計画

(様式1)

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
選定理由	八間堀排水区は中川と大落古利根川に挟まれた低平な土地であることから、区域の雨水はポンプにより強制的に排水している状況であり、ポンプ場の排水機能が喪失した場合、市民への影響は甚大となることは確実である。 この排水機能を担っている藤塚ポンプ場は、昭和53年の供用開始から45年（令和4年度末）が経過し設備の老朽化が進行するとともに、土木施設部分の耐震性能の不足が確認されている。 このため、ストックマネジメント計画によるポンプ設備の改築と合わせて、大地震や激甚化する大雨による浸水に備え、ポンプ場の耐震・耐水化を集中的に図るものである。			
整備目標	①本計画における対象降雨 ・本計画における対象降雨：49.5 mm/hr（春日部市公共下水道事業の計画降雨強度） ・目標とする理由：藤塚ポンプ場の現有の計画対象降雨であるため ②目標設定 ポンプ故障などに起因する排水機能喪失により内水氾濫被害が発生することを防止する。 ・ストックマネジメント計画で定めた時間計画保全対象施設を全て更新する。 ・レベル2地震動に関する耐震性能を確保する。 ・中高頻度の降雨規模により河川堤防が決壊した場合において、浸水被害よりポンプ場の排水機能が喪失することを防止する。			
内水ハザードマップ策定状況	・策定予定（令和8年3月末策定予定）			
事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・ポンプ設備の改築 ・ポンプ施設の耐震化 ・ポンプ場管理棟の耐水化
		ソフト対策	下水道管理者	・条例に基づく雨水流出抑制の指導 ・内水ハザードマップの作成・公表 ・大雨、洪水警報時の市内パトロール ・水害時対応訓練の実施など
			下水道管理者以外	・出前講座の実施（危機管理防災課） ・ハザードマップの公表（危機管理防災課） ・土嚢の配布（危機管理防災課） ・SNSを活用した気象警報、交通状況の情報提供（シティセールス広報課）

	自	ハード		・防災資機材の備蓄（危機管理防災課）
	助	ソフト		・自主防災組織による防災訓練の実施
		対策		

備考）事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述（様式2に記述する対策を除く）
また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

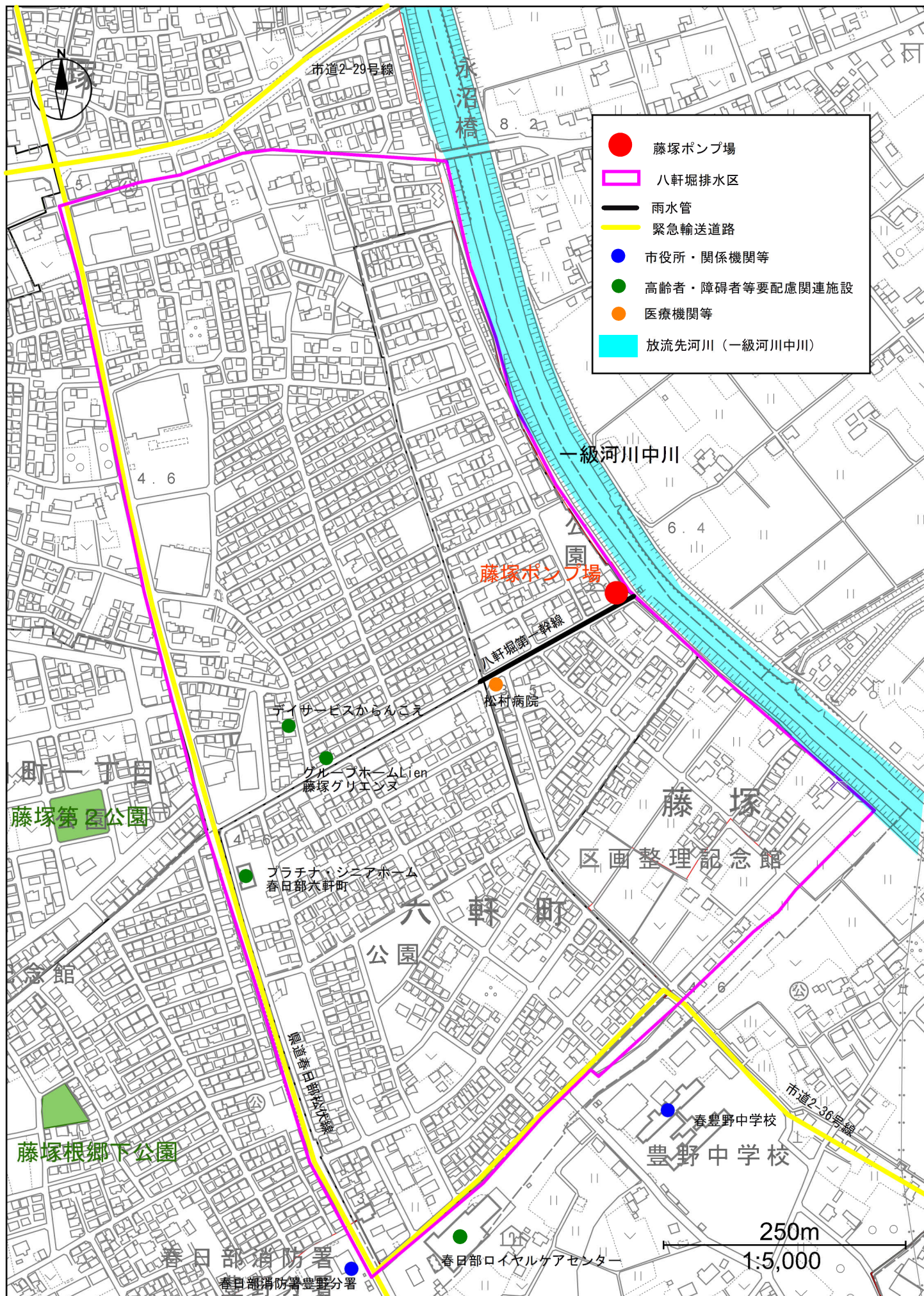
年 度 計 画				(百万円)
名称	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
機械設備		280	300	580
電気設備	150			150
耐震化		10		10
耐水化			8	8
計	150	290	308	748

備考）事業内容に位置付けた施設について年割額（事業費）を記述。

整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	・改築と同時に耐震・耐水化を実施することにより、事業の効率化及び平準化を図る。 ・ポンプ機能喪失により浸水被害が発生することが防止される。
放流先河川との調整状況	・現有の排水能力を維持する。
その他	【関連計画】各ハード対策はそれぞれ基本計画に位置づけがある。 改築更新：春日部市公共下水道ストックマネジメント計画 耐震化：春日部市公共下水道（第2期）総合地震対策計画 耐水化：春日部市公共下水道耐水化基本設計

八間堀排水区大規模雨水処理施設整備事業（参考図）



はちけんほり 八間堀排水区 大規模雨水処理施設整備事業（春日部市）

- 藤塚ポンプ場は昭和53年度に供用開始されており、主要施設であるスクリーンプンプは目標耐用年数の40年を超過している。また、通常の大雨でも頻繁にポンプが稼働している状況であり、機能喪失は浸水被害の発生に直結しかねない状況である。
- 改築・耐震・耐水化を同時期に一体的に実施することにより事業の効率化を図るとともに、根本的対策を実施する。

位置図



八間堀排水区

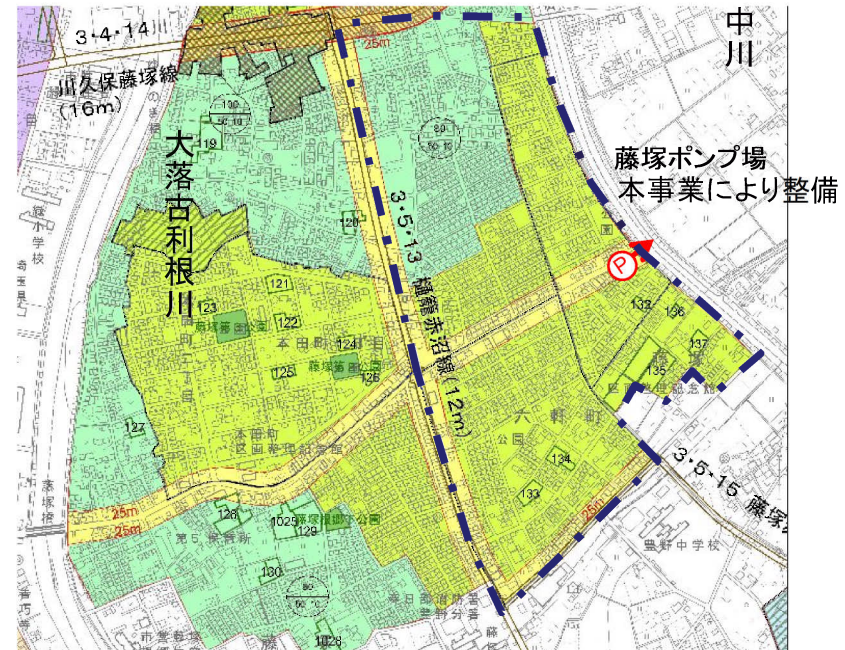
藤塚ポンプ場の老朽化状況



スクリーンプンプ老朽化状況
錆による損傷が進行しており放置すればいずれは脱落の恐れもある

事業概要

- 事業内容 : 雨水ポンプ場整備 1箇所 等
- 全体事業費 : 約7.4億円 ※工事諸費等を含む
- 事業期間 : 令和6年度～令和8年度



- 地元状況 : 地元自治会が、ポンプ場の整備等、緊急的かつ効率的な治水対策を要望。

事業の効果

災害時における現有計画降雨（49.5mm/h）に対する排水機能の維持。

- ・施設老朽化による、故障等の機能喪失の防止
- ・レベル2地震動による破壊による機能喪失の防止
- ・河川堤防決壊に伴う洪水被害による機能喪失の防止